

編集後記

▼『現代宗教研究』第五十四号をお届けします。

▼第五十二回中央教化研究会議では、令和三年（二〇二一）二月十六日に「宗祖降誕八〇〇年」の御正當をお迎えすることを記念し、テーマ「日蓮聖人の宗教を考える」を主題に、宗教的または主體的に聖人のお気持ちを受け止め、ご誕生の意義について改めて学び、新たな気持ちで檀信徒・未信徒に向けて伝え広めていくことを主眼として開催しました。そこで日蓮聖人の歴史的な側面を学ぶのと同時に、上行自覚やご誕生の意義、更には広く死生観や靈魂観にわたる講演を行いました。『法華經』から見る日蓮聖人降誕の現代的意義』山口県立大学教授鈴木隆泰師、「歴史から見た日蓮聖人」勸学院副院長中尾堯文師による基調講演、そして「死の宗教 生の宗教」日蓮宗現代宗教研究所長三原正資の基調報告を収録しております。是非ご一読ください。

なお、「日本人の死生観／生まれ変わりの明と闇」京都大学大学院政策のための科学ユニット特任教授カール・ベッカー氏の基調講演につきましては、ご本人の意向により、掲載しておりませんので、ご了承ください。

▼平成三十年度第二十八回「法華經・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナー」では、「戦後日本における宗教者の平和運動―中濃教篤師の業績を中心として―」をテーマ

に開催しました。明治維新から百五十年を迎える中で近現代史を紐解くとき、その一つとして、戦争を契機として興った平和運動が挙げられます。日蓮宗でも立正平和運動として宗内外で様々な活動が行われていますが、当研究所創立当初に深く関わっていた人物として第五代所長中濃教篤師がいらっしやいます。そこで中濃教篤師に焦点をあてて、「中濃教篤師の業績と資料概要」立正大学大学院戸田教徹師の発表、「起動する戦後日本の宗教者平和活動―中濃教篤資料と細井友晋資料の分析から―」佛教大学社会学部教授大谷栄一氏、「中濃教篤と戦後の日中友好運動―日中仏教交流懇談会を中心に―」愛知大学国際問題研究所客員研究員坂井田夕起子氏、「新宗教と平和運動―大本・人類愛善会の活動を事例に―」大阪大学招聘研究員永岡崇氏の講演を行いました。中濃師が広く海外で活躍され、実践活動家として高く評価されていることは周知の如くですが、宗教者に多大な影響を与えた足跡をいま一度振り返り、立正平和に対する認識を深めて頂ければと思います。

▼研究ノートは例年通り、研究員それぞれの研究成果を収録しています。現宗研の研究例会で発表されたものとなりませんが、各研究員がどのような課題をもって調査研究に取り組んでいるのかを知って頂ければ幸甚です。